

2009年11月2日

2010年3月期 第2四半期 決算説明会

代表取締役社長
久芳 徹夫

京セラ株式会社

2010年3月期 6ヵ月通算 決算概要（前年同期比）

（単位：億円）

	2009年3月期 6ヵ月通算		2010年3月期 6ヵ月通算		前年同期比増減	
	金額	売上高比(%)	金額	売上高比(%)	金額	率(%)
売上高	6,587	100.0	4,839	100.0	-1,748	-26.5
営業利益	622	9.4	89	1.8	-534	-85.8
税引前四半期純利益	740	11.2	171	3.5	-569	-76.8
当社株主に帰属する 四半期純利益	452	6.9	87	1.8	-365	-80.7
希薄化後1株当たり当社株主に 帰属する四半期純利益(円)	238.52	—	47.56	—	-190.96	-80.1
設備投資額	370	5.6	136	2.8	-234	-63.3
減価償却費	404	6.1	298	6.2	-106	-26.2
研究開発費	354	5.4	260	5.4	-93	-26.4

2010年3月期 6ヵ月通算 決算要約（1）

－ 前年同期比 －

1. 事業環境の低迷による収益の減少

部品事業 売上高 ▲988億円、事業利益 ▲348億円

- デジタルコンシューマ機器、産業機械、自動車産業などの主要市場において需要は減少
- ソーラーエネルギー事業における価格下落の進行

機器事業 売上高 ▲703億円、事業利益 ▲90億円

- 情報化投資の抑制により、プリンタ、デジタル複合機の販売が低迷
- 携帯電話端末の売上減少

2010年3月期 6ヵ月通算 決算要約(2)

-前年同期比-

2. 米ドル・ユーロに対する円高の影響

		2009年3月期 6ヵ月通算		2010年3月期 6ヵ月通算	
平均為替レート		対ドル: 106円	対ユーロ: 163円	対ドル: 95円	対ユーロ: 133円
為替変動による 影響額 (前年同期比)	売上高	-342億円		-450億円	
	税引前 四半期純利益	-57億円		-135億円	

3. コスト削減の進展

- 今期予想: 前期比 年間▲560億円削減を前倒しで実施

4. その他: 一時的な利益の減少 前年同期比 約▲78億円

前年同期における一時的な損益

- その他の事業(不動産売却益) 約106億円
- 電子デバイス関連事業(固定資産の減損費用等) 約▲28億円

2010年3月期 第2四半期（3ヵ月）決算概要

－ 前四半期比 －

（単位：億円）

	2010年3月期				前四半期比増減	
	第1四半期		第2四半期			
	金額	売上高比(%)	金額	売上高比(%)	金額	率(%)
売上高	2,254	100.0	2,585	100.0	331	14.7
営業利益	-56	-2.5	144	5.6	200	—
税引前四半期純利益	7	0.3	164	6.4	157	—
当社株主に帰属する 四半期純利益	-5	-0.2	92	3.6	96	—
希薄化後当社株主に帰属する 1株当たり四半期純利益(円)	-2.50	—	50.07	—	52.57	—

2010年3月期 第2四半期（3ヵ月）決算要約（1）

－ 前四半期比 －

1. 全ての事業セグメントで第1四半期比増収増益

部品事業 売上高 +199億円、事業利益 +101億円

- デジタルコンシューマ機器用部品の需要が引き続き拡大
- 産業機械、自動車関連部品の需要は緩やかに増加
- ソーラーエネルギー事業は国内を中心に順調に拡大



生産拡大に伴う設備稼働率の上昇、コスト削減効果による利益増

機器事業 売上高 +98億円、事業利益 +74億円

- 新製品の貢献による通信機器・情報機器関連事業の売上増
- 事業再編の効果やコスト低減による利益改善

2010年3月期 第2四半期（3ヵ月）決算要約（2）

－ 前四半期比 －

2. 事業強化に向けた戦略的施策の実施

① M & Aによる新たな経営資源の獲得

- 情報機器関連事業：
韓国情報機器販売会社2社を子会社化
チョンホ・オーエーシス社
チョンホ・ドキュメントソリューション社

本社： ソウル市
従業員数*： 約100人
2008年12月期売上高*：約350億ウォン
(約28億円)

- その他の事業：
国内通信エンジニアリング会社
ネットイットワークス社を子会社化

本社： 東京都台東区
従業員数： 約300人
2009年2月期売上高： 約77億円

② 経営資源の最適化の推進

- 通信機器関連事業： ソフトウェア子会社(Kyocera Wireless India, Pvt, Ltd.)の売却

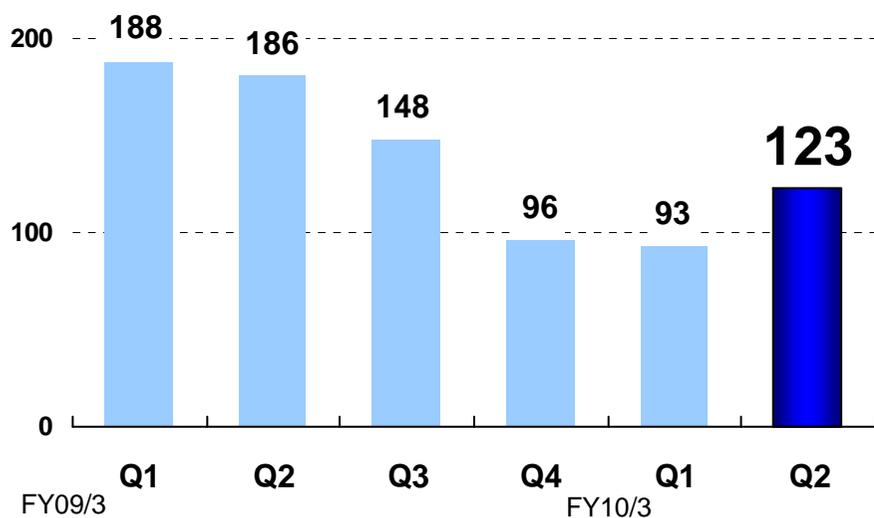
* 従業員数及び2008年12月期 売上高は2社合計

事業セグメント別四半期推移

ファインセラミック部品関連事業

売上高

(単位:億円)

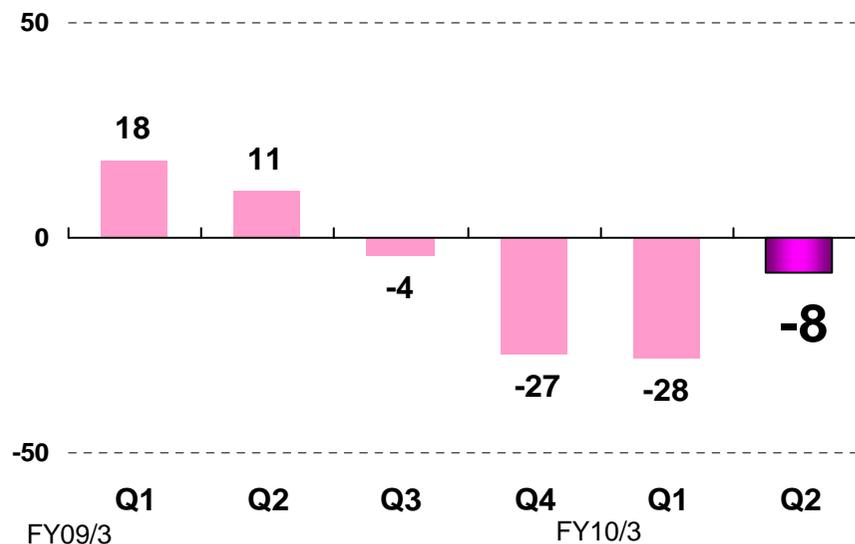


■ 前四半期比 +30億円

- 半導体製造装置用部品、自動車関連部品の需要が緩やかに増加
- デジタルコンシューマ機器用部品の需要回復が継続

事業利益

(単位:億円)



■ 前四半期比 +20億円

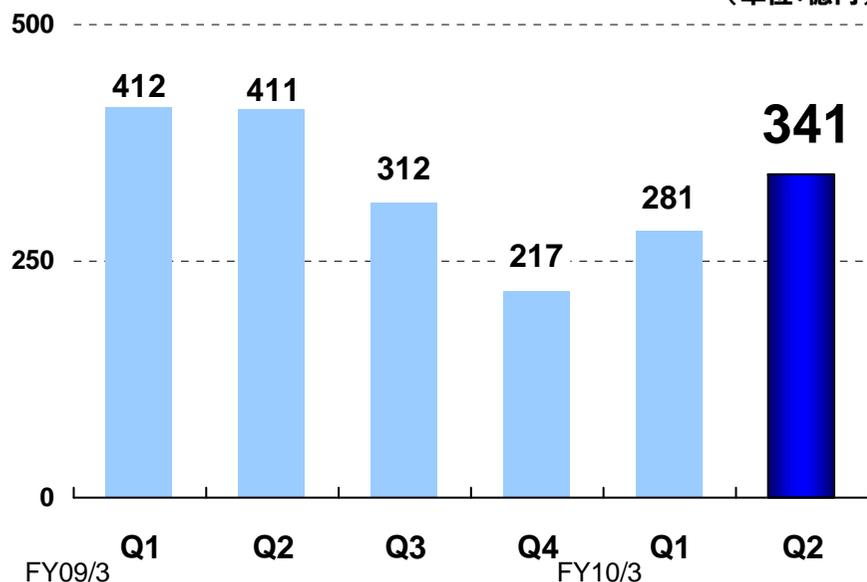
- 増収効果及びコスト削減の進展により大幅に事業損失は縮小

事業セグメント別四半期推移

半導体部品関連事業

売上高

(単位:億円)

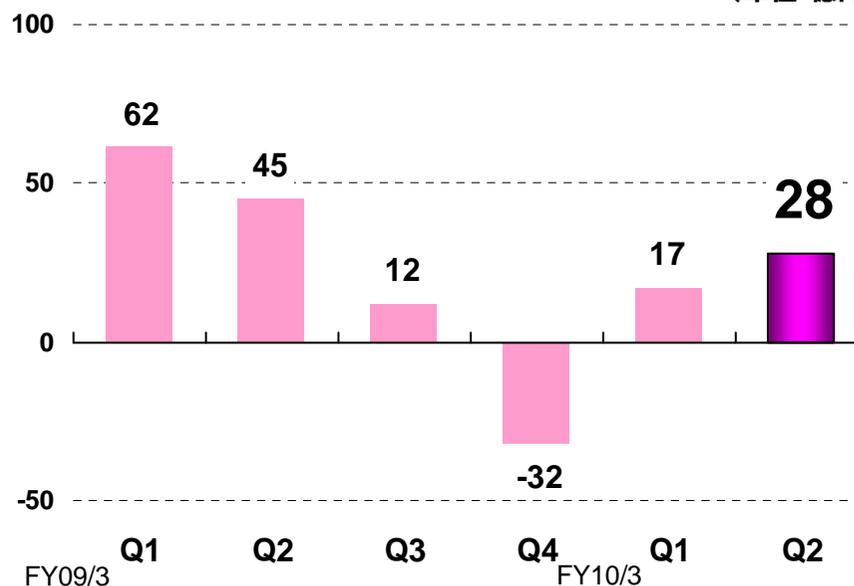


■ 前四半期比 +61億円

- デジタルコンシューマ機器用セラミックパッケージの需要拡大が継続
- ゲーム機、サーバー用有機パッケージの需要回復

事業利益

(単位:億円)



■ 前四半期比 +11億円

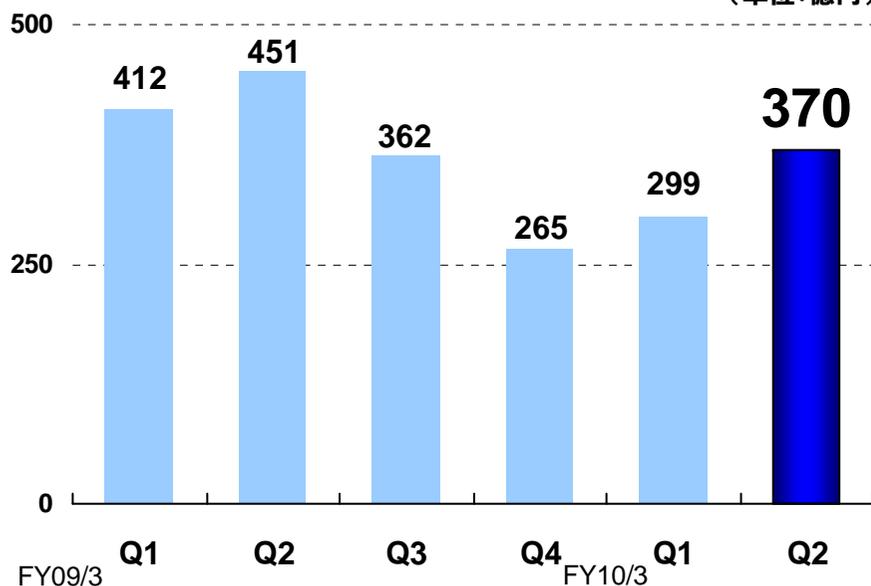
- 増収による効果、生産性向上、徹底したコスト削減による利益改善

事業セグメント別四半期推移

ファインセラミック応用品関連事業

売上高

(単位:億円)

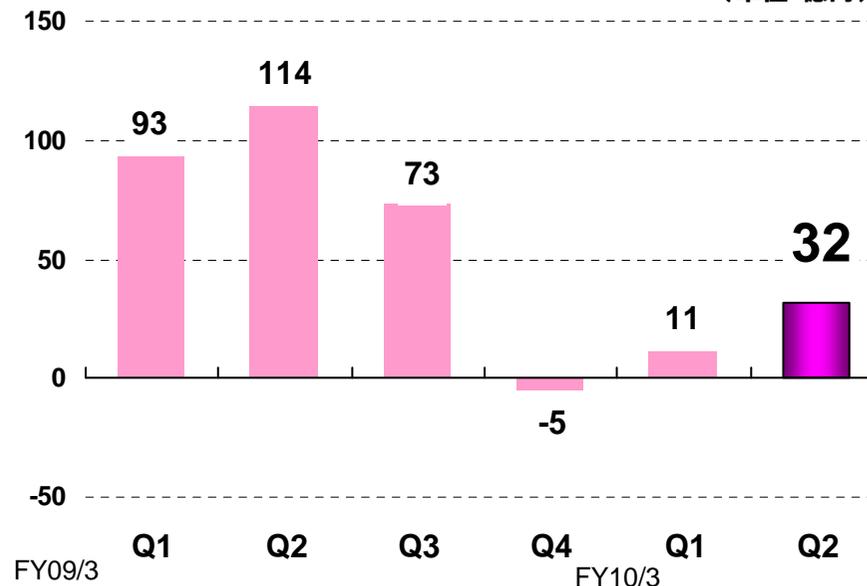


■ 前四半期比 +71億円

- ソーラーエネルギー事業:
国内需要の拡大及び海外需要の回復
- 切削工具事業:
自動車産業向けの需要が緩やかに増加

事業利益

(単位:億円)



■ 前四半期比 +21億円

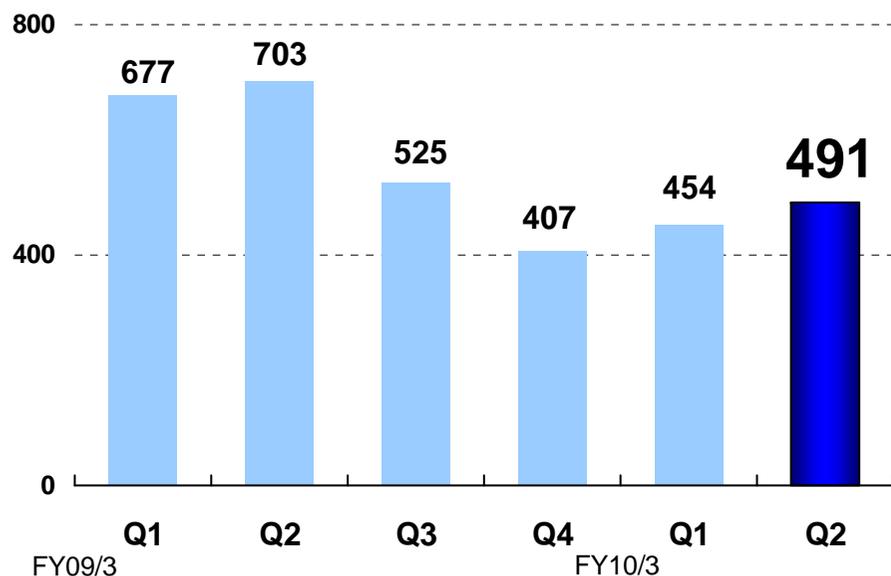
- 増収及び原価低減効果による収益性の改善

事業セグメント別四半期推移

電子デバイス関連事業

売上高

(単位:億円)

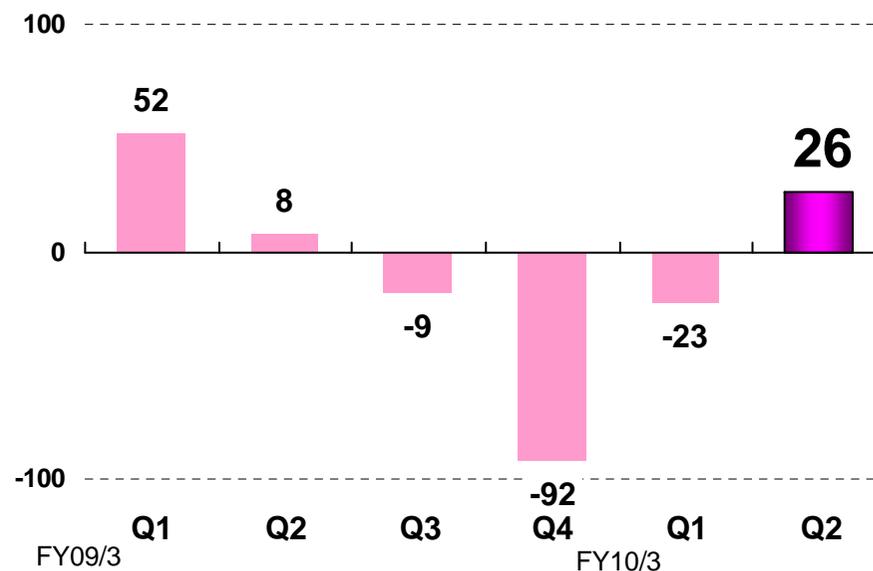


■ 前四半期比 +37億円

- デジタルコンシューマ機器を中心に主要部品の需要が増加

事業利益

(単位:億円)



■ 前四半期比 +49億円

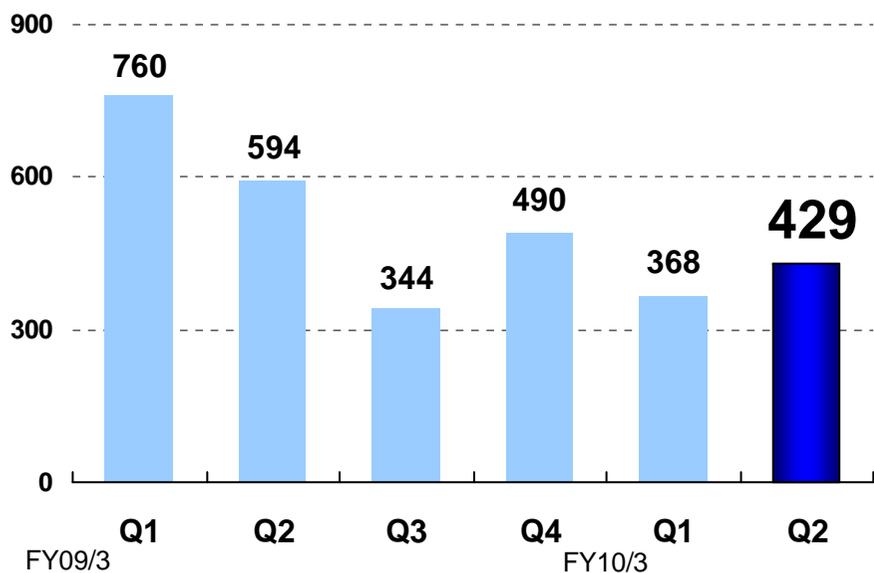
- 主要部品の増収及び原価低減の効果により黒字化

事業セグメント別四半期推移

通信機器関連事業

売上高

(単位:億円)

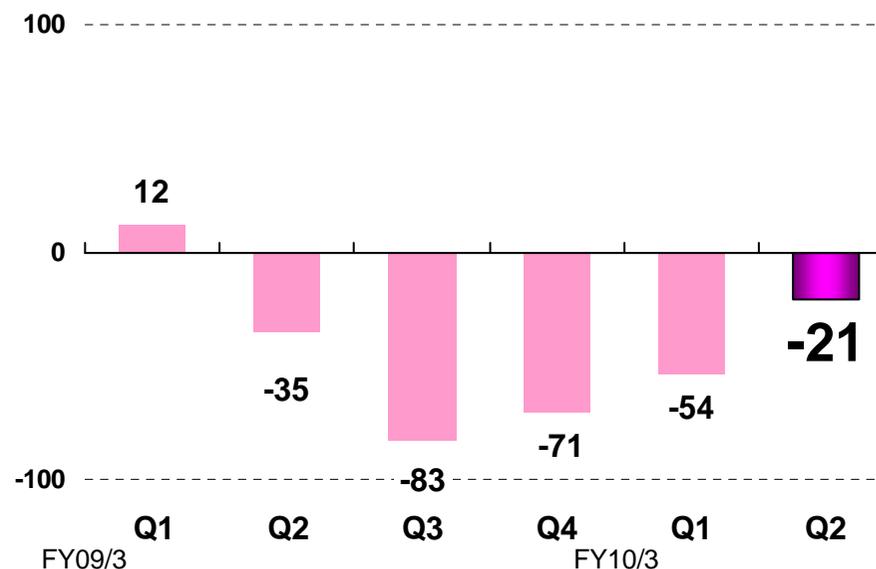


■ 前四半期比 +61億円

- 新製品の投入効果により、国内での携帯電話端末の売上増

事業利益

(単位:億円)



■ 前四半期比 +32億円

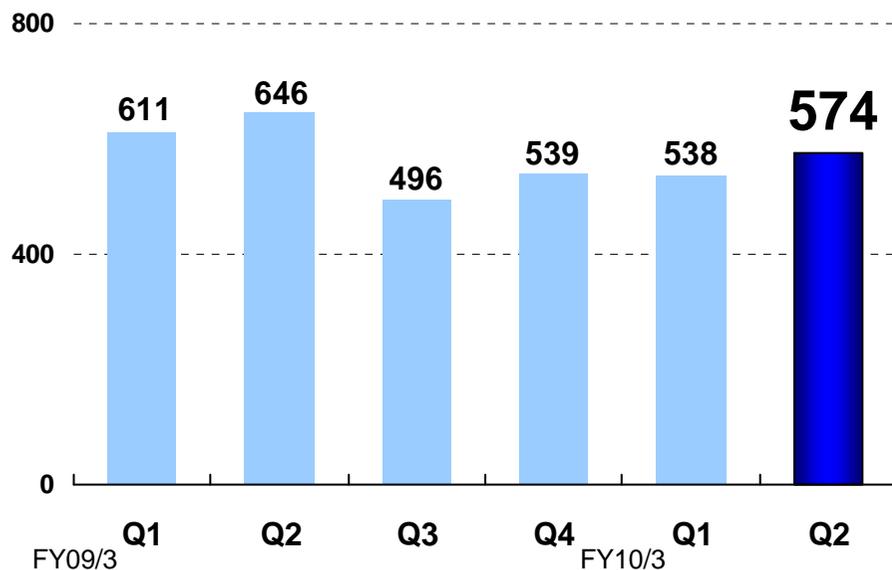
- 増収効果、コスト削減の推進並びに開発・販売面での統合効果により損失額は縮小

事業セグメント別四半期推移

情報機器関連事業

売上高

(単位:億円)

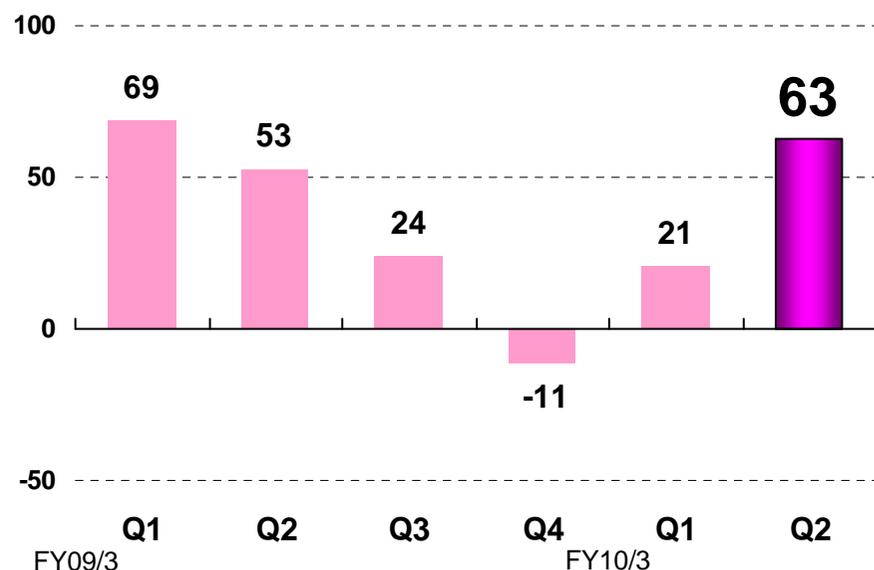


■ 前四半期比 +36億円

- ・市場が低迷する中で、プリンタ及び複合機の新製品の拡販により増収

事業利益

(単位:億円)



■ 前四半期比 +42億円

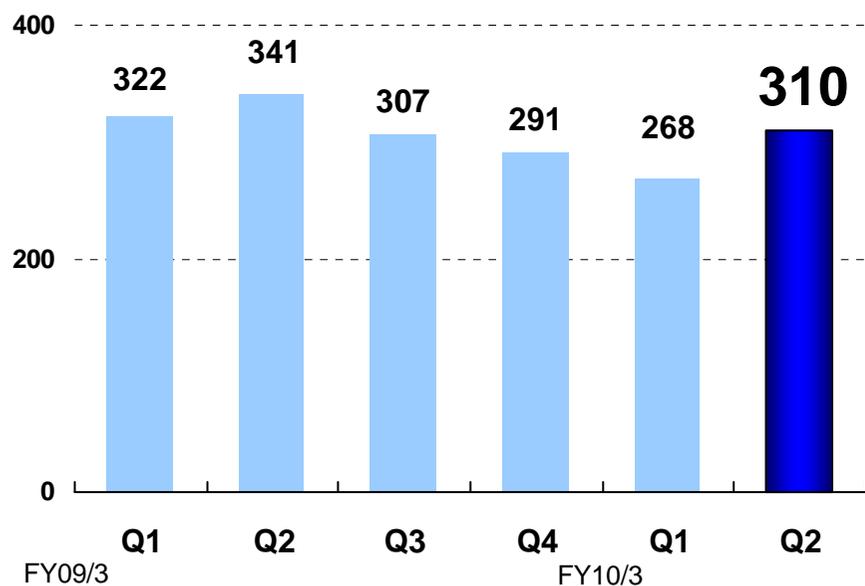
- ・増収及び原価低減により増益
- ・固定資産売却益(約15億円)の計上

事業セグメント別四半期推移

その他の事業

売上高

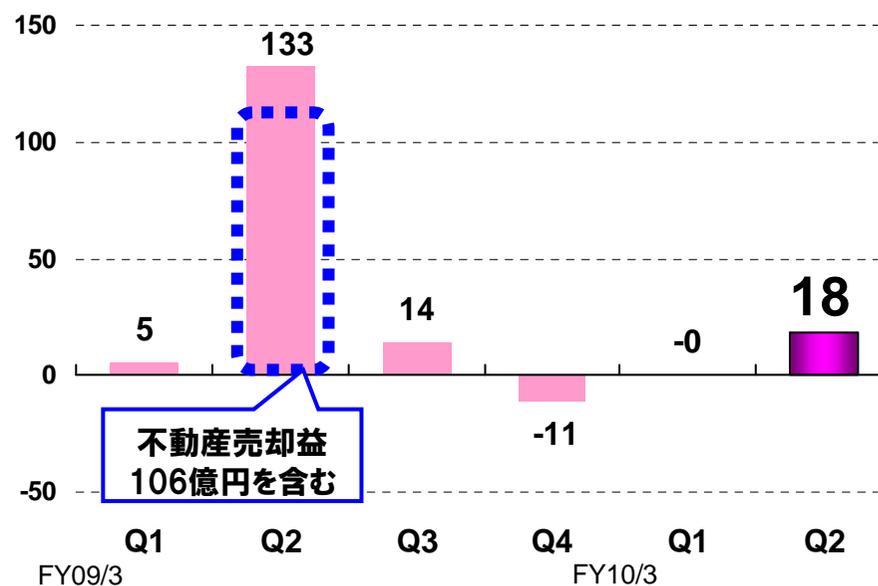
(単位:億円)



- **前四半期比 +42億円**
- 京セラコミュニケーションシステム(株): ICT事業の売上増、新規子会社の貢献
- 京セラケミカル(株): 電子部品材料の需要回復により増収

事業利益

(単位:億円)



- **前四半期比 +19億円**
- 増収効果による黒字化

2010年3月期 業績予想

(単位:億円)

	2009年3月期	2010年3月期 予想		前期比増減	
	金額	金額	売上高比(%)	金額	増減率(%)
売上高	11,286	10,400	100.0	-886	-7.8
営業利益	434	440	4.2	6	1.3
税引前当期純利益	560	570	5.5	10	1.8
当社株主に帰属する 四半期純利益	295	340	3.3	45	15.2
希薄化後1株当たり当社株主に 帰属する当期純利益(円)	157.23	185.26	—	28.03	17.8

平均為替レート	2009年3月期		2010年3月期予想			
			前回予想		今回予想	
	対ドル: 101円	対ユーロ: 143円	対ドル: 92円	対ユーロ: 123円	対ドル: 92円	対ユーロ: 129円
為替の変動による 影響額(前期比)	売上高	-910億円	-780億円		-630億円	
	税引前 当期純利益	-230億円	-240億円		-195億円	

(注)2010年3月期予想の希薄化後1株当たり当社株主に帰属する当期純利益は、2010年3月期上期の希薄化後の期中平均発行済株式数を用いて算出しています。

2010年3月期 事業セグメント別 売上高予想 -前回予想比-

(単位:億円)

■ 事業セグメント	2010年3月期				前回予想比増減	
	前回予想 (2009年4月)		今回予想 (2009年10月)		金額	増減率(%)
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)		
■ ファインセラミック部品関連事業	500	4.8	480	4.6	-20	-4.0
■ 半導体部品関連事業	1,100	10.6	1,270	12.2	170	15.5
■ ファインセラミック応用品関連事業	1,580	15.2	1,480	14.2	-100	-6.3
■ 電子デバイス関連事業	1,850	17.8	1,900	18.3	50	2.7
部品事業 計	5,030	48.4	5,130	49.3	100	2.0
■ 通信機器関連事業	2,000	19.2	1,960	18.9	-40	-2.0
■ 情報機器関連事業	2,340	22.5	2,290	22.0	-50	-2.1
機器事業 計	4,340	41.7	4,250	40.9	-90	-2.1
■ その他の事業	1,230	11.8	1,220	11.7	-10	-0.8
調整及び消去	-200	-1.9	-200	-1.9	0	—
売上高	10,400	100.0	10,400	100.0	0	—

2010年3月期 事業セグメント別 事業利益予想

-前回予想比-

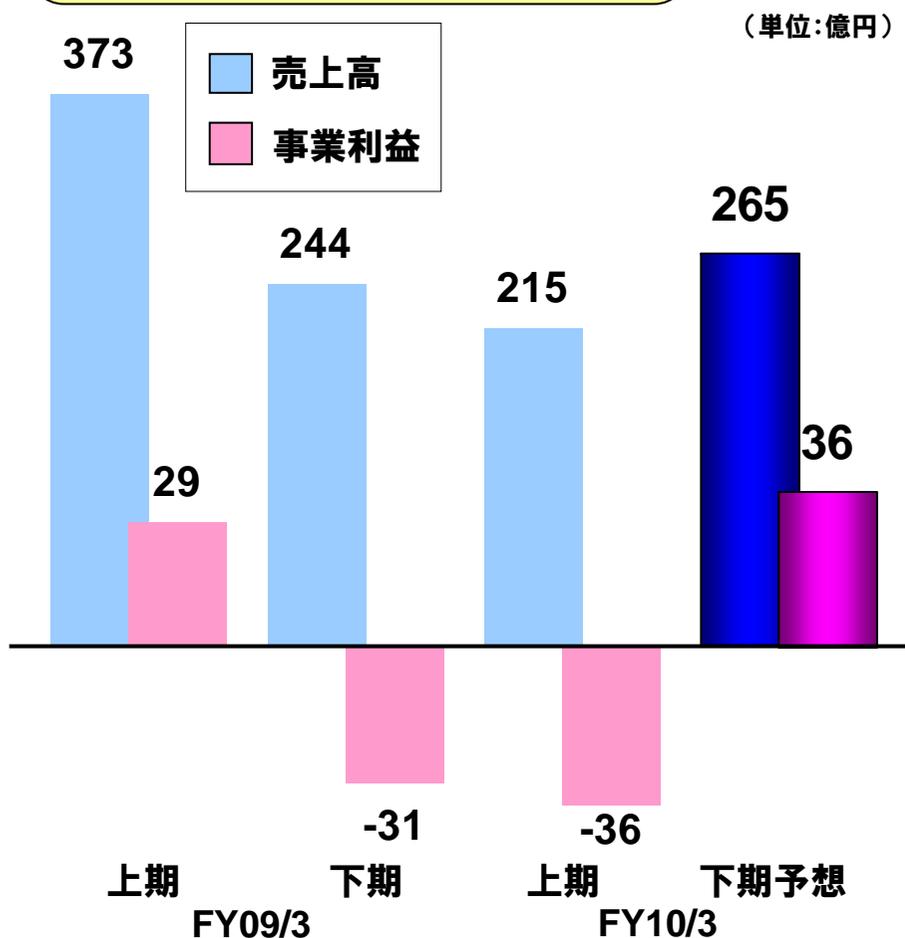
(単位:億円)

■ 事業セグメント	2010年3月期				前回予想比増減	
	前回予想 (2009年4月)		今回予想 (2009年10月)		金額	増減率(%)
	金額	利益率(%)	金額	利益率(%)		
■ ファインセラミック部品関連事業	0	—	0	—	0	—
■ 半導体部品関連事業	40	3.6	105	8.3	65	162.5
■ ファインセラミック応用品関連事業	180	11.4	115	7.8	-65	-36.1
■ 電子デバイス関連事業	20	1.1	55	2.9	35	175.0
部品事業 計	240	4.8	275	5.4	35	14.6
■ 通信機器関連事業	-60	—	-60	—	0	—
■ 情報機器関連事業	110	4.7	150	6.6	40	36.4
機器事業 計	50	1.2	90	2.1	40	80.0
■ その他の事業	40	3.3	38	3.1	-2	-5.0
事業利益 計	330	3.2	403	3.9	73	22.1
本社部門損益等	240	—	167	—	-73	-30.4
税引前当期純利益	570	5.5	570	5.5	0	—

事業セグメント別 下期の取組み

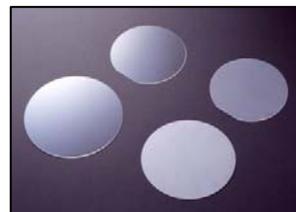
ファインセラミック部品関連事業

売上高・事業利益推移



下期の取組み

- 需要増加による売上増加
 - ・ デジタルコンシューマ機器用部品
 - ・ 半導体製造装置用部品
 - ・ 自動車関連部品
- 一層の原価低減の推進



LED用サファイア基板



半導体製造装置用部品

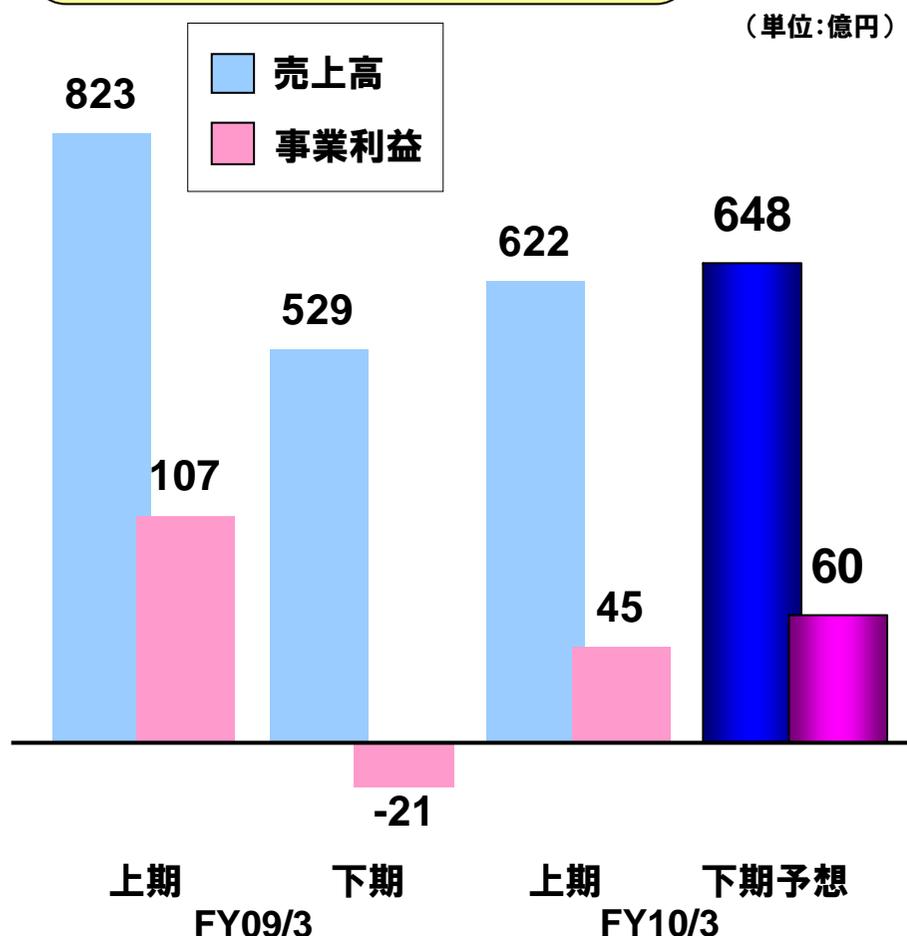


グロープラグ

事業セグメント別 下期の取組み

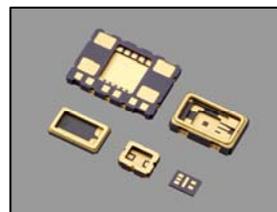
半導体部品関連事業

売上高・事業利益推移

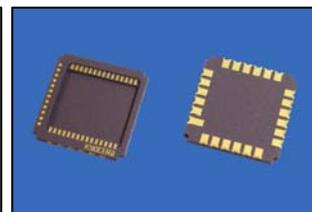


下期の取組み

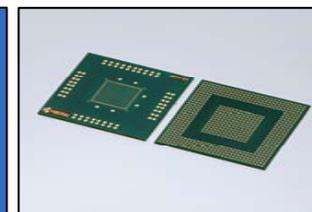
- デジタルコンシューマ機器及びサーバー向け製品の売上拡大
 - 水晶/SAWデバイス用セラミックパッケージ
 - CCD/CMOSイメージセンサー用セラミックパッケージ
 - 携帯電話用SiP基板
 - ASIC用有機パッケージ
- 主要製品の一層のシェアアップ
- 徹底した原価低減による収益性の向上



水晶/SAW用セラミックパッケージ



イメージセンサー用セラミックパッケージ

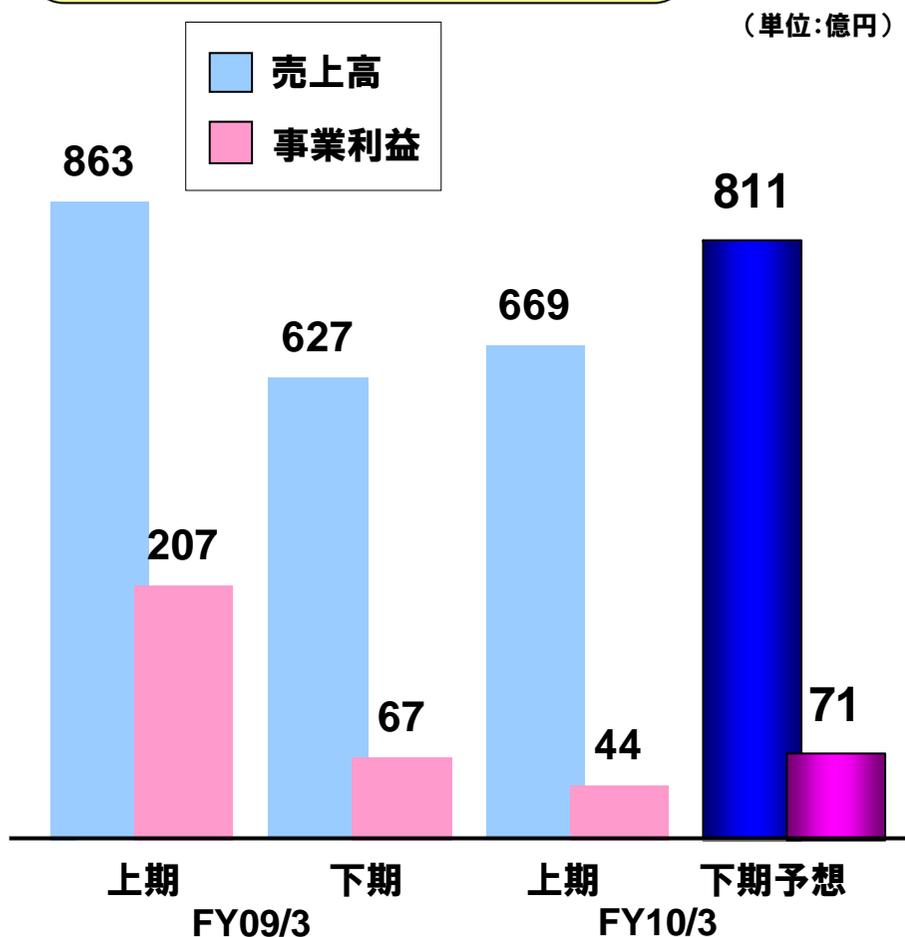


ASIC用有機パッケージ

事業セグメント別 下期の取組み

ファインセラミック応用品関連事業

売上高・事業利益推移



下期の取組み

ソーラーエネルギー事業

- 販売網拡大による好調な国内市場での拡販
- 原価低減によるコスト競争力の強化



住宅用
ソーラー発電システム

切削工具事業

- 自動車関連市場での受注拡大

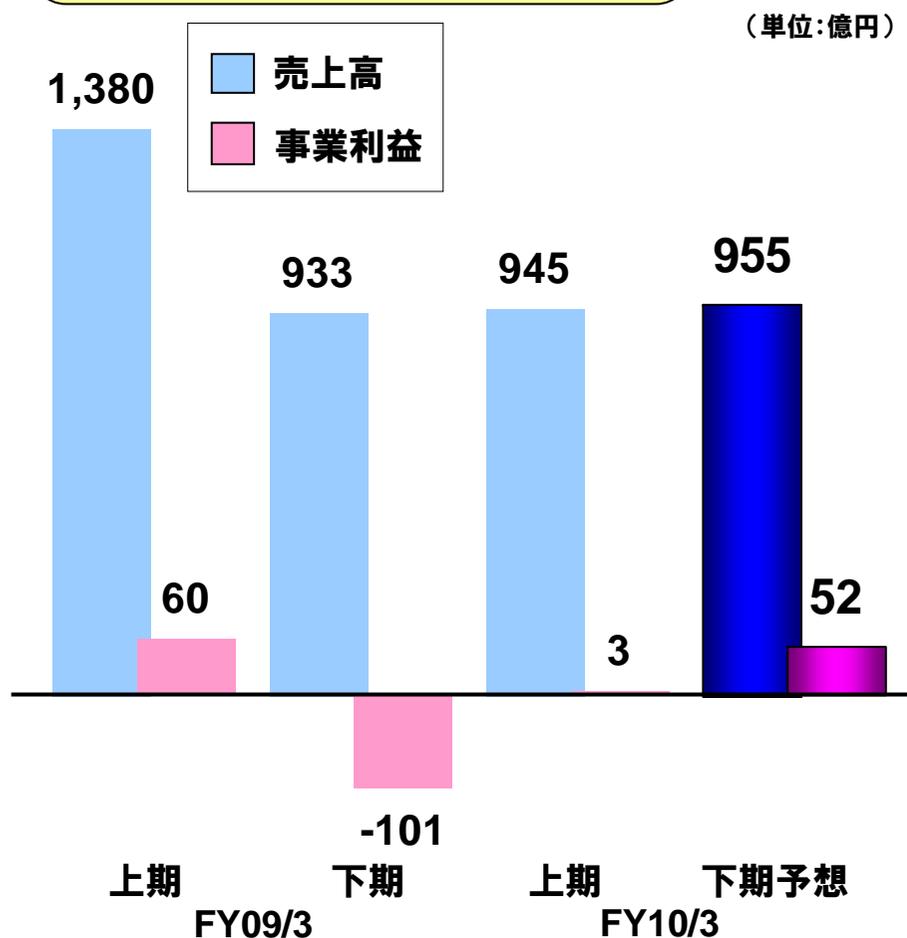


切削工具

事業セグメント別 下期の取組み

電子デバイス関連事業

売上高・事業利益推移

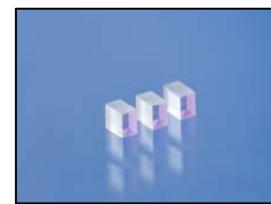


下期の取組み

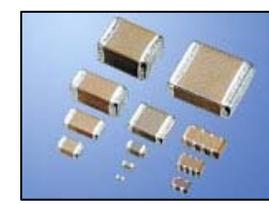
- デジタルコンシューマ機器向け部品の売上拡大
- 新製品の拡販
 - ・ 水晶波長板
 - ・ 水晶エタロンフィルタ
 - ・ 薄型コンデンサ
- 原価低減、生産性の向上による収益性の改善



水晶波長板



水晶エタロンフィルタ

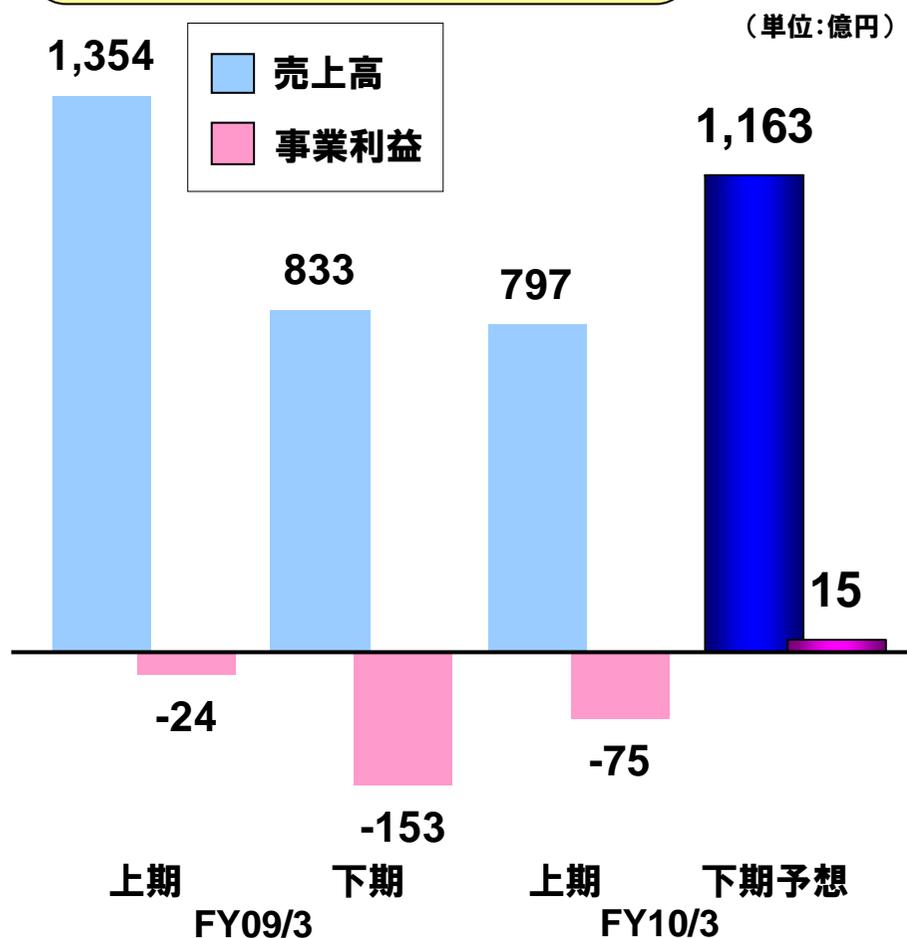


セラミックコンデンサ

事業セグメント別 下期の取組み

通信機器関連事業

売上高・事業利益推移



下期の取組み

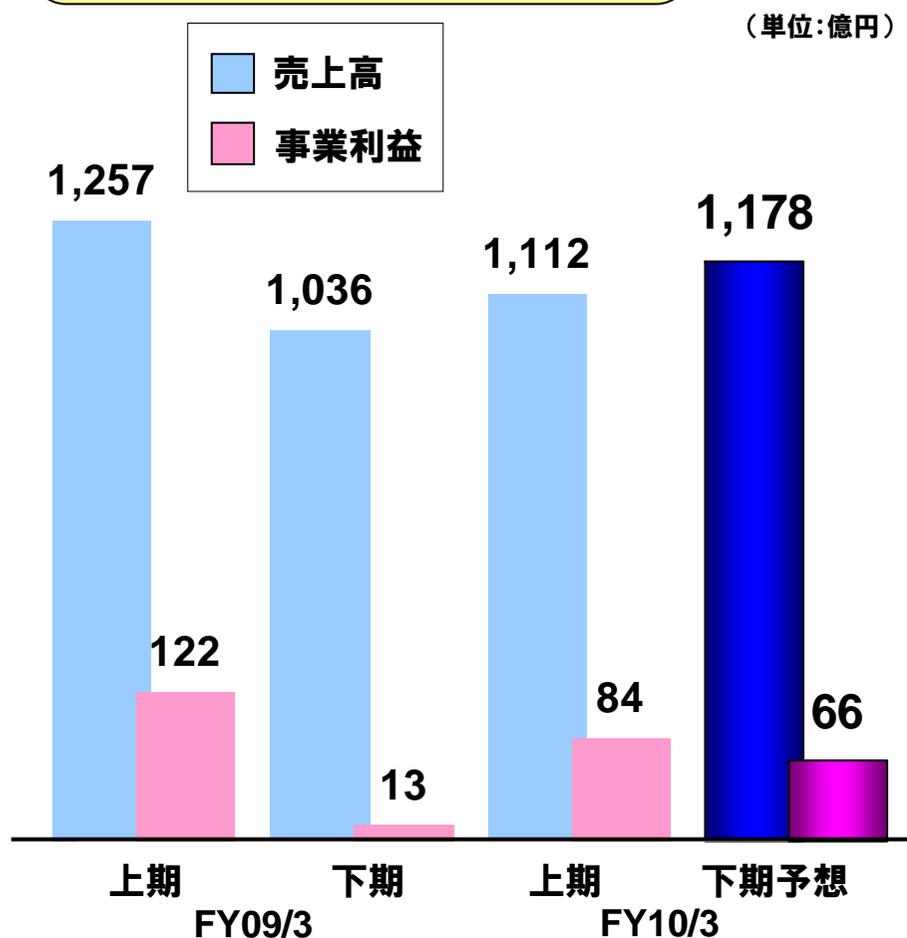
- 国内／海外市場での新製品投入による売上増
- 海外市場でのクロス販売の推進、新規顧客の獲得
- 収益性の改善



事業セグメント別 下期の取組み

情報機器関連事業

売上高・事業利益推移



下期の取組み

- 継続的な新製品の市場投入 (下期8モデル)
- Triumph-Adler社の販売チャネルの活用、韓国新販社との連携強化による拡販
- 差別化戦略による受注拡大と一層の原価低減



TASKalfa500ci
(カラーA3 40ppm)



KM-3060
(モノクロ A3 30ppm)

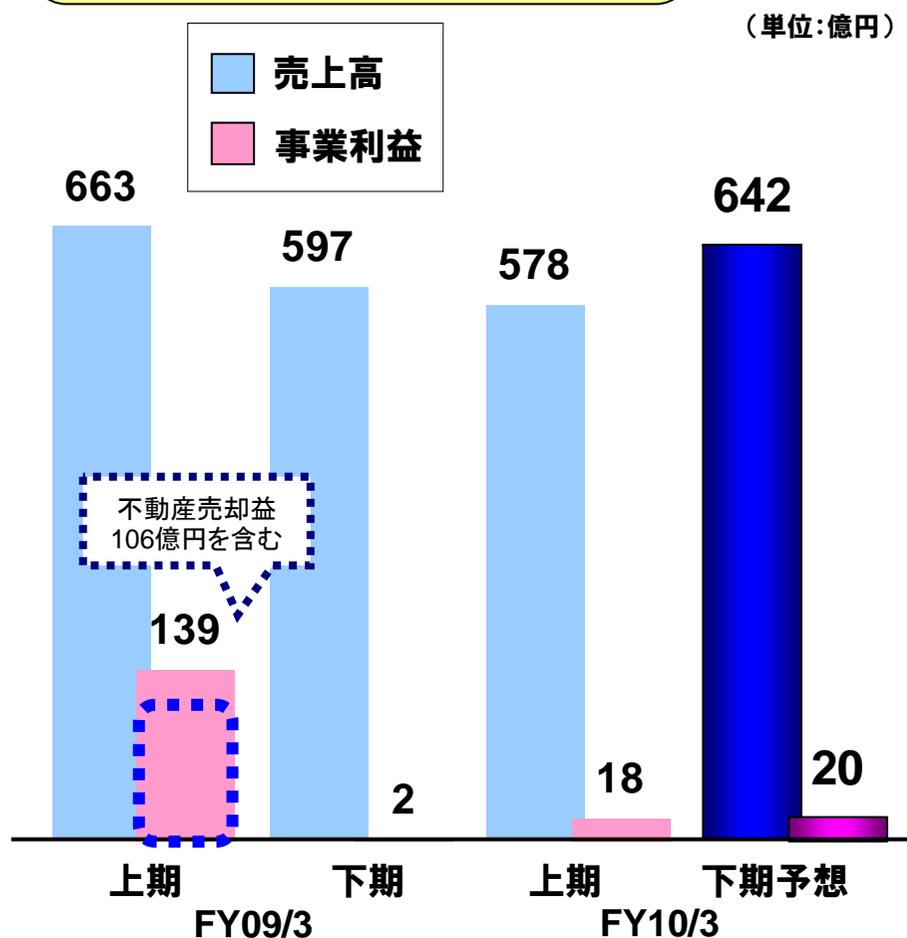


FS-C5400DN
(カラーA4 35ppm)

事業セグメント別 下期の取組み

その他の事業

売上高・事業利益推移



下期の取組み

- ICT(情報通信技術)事業を中心とした売上の拡大
- 電子部品材料事業の拡大



PC用コミュニケーションツール



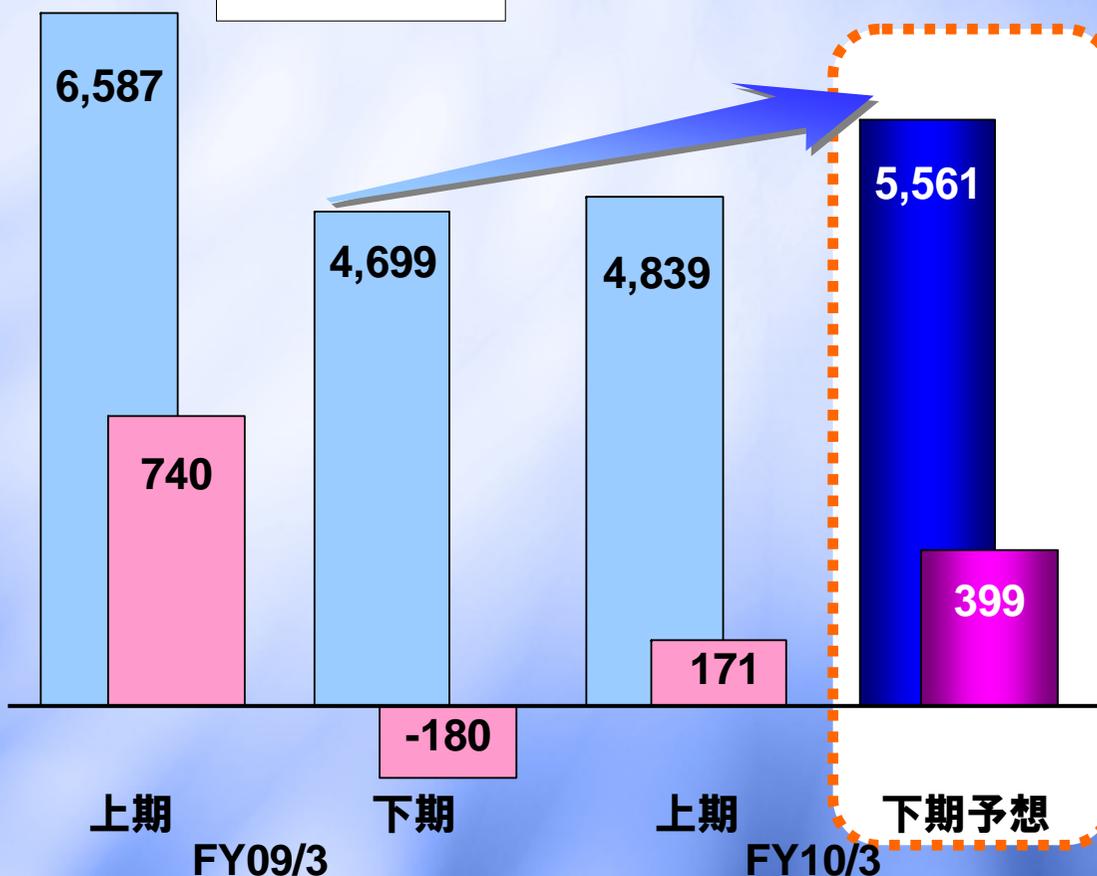
半導体封止用エポキシ材料

半期別 売上高・税引前利益の推移

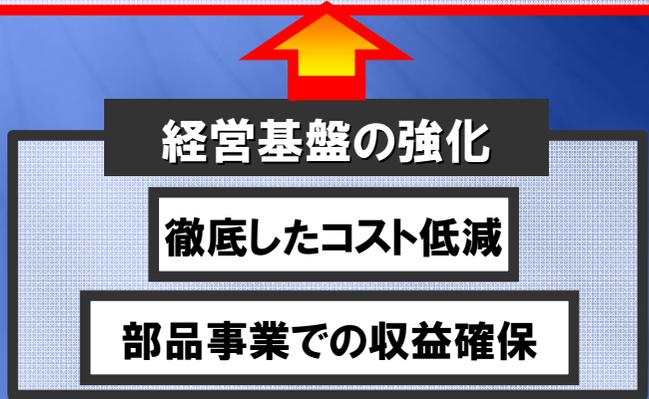
— 2009年3月期～2010年3月期予想 —

(単位:億円)

■ 売上高
■ 税引前利益



**2010年3月期
通期予想の達成**



補足資料

設備投資額、減価償却費、研究開発費

(単位:億円)

	2009年3月期		2010年3月期予想		前期比増減	
	金額	売上高比 (%)	金額	売上高比 (%)	金額	増減率 (%)
設備投資額	631	5.6	430	4.1	-201	-31.8
減価償却費	838	7.4	680	6.5	-158	-18.8
研究開発費	659	5.8	580	5.6	-79	-12.0

※4月予想から変更はありません。

2010年3月期 6ヵ月通算 事業セグメント別 売上高

(単位:億円)

■ 事業セグメント	2009年3月期 6ヵ月通算		2010年3月期 6ヵ月通算		前年同期比増減	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	増減率(%)
■ ファインセラミック部品関連事業	373	5.6	215	4.4	-158	-42.4
■ 半導体部品関連事業	823	12.5	622	12.9	-201	-24.4
■ ファインセラミック応用品関連事業	863	13.1	669	13.8	-194	-22.5
■ 電子デバイス関連事業	1,380	21.0	945	19.5	-436	-31.6
部品事業 計	3,439	52.2	2,451	50.6	-988	-28.7
■ 通信機器関連事業	1,354	20.5	797	16.5	-557	-41.1
■ 情報機器関連事業	1,257	19.1	1,112	23.0	-146	-11.6
機器事業 計	2,612	39.6	1,909	39.5	-703	-26.9
■ その他の事業	663	10.1	578	11.9	-85	-12.8
調整及び消去	-126	-1.9	-99	-2.0	27	—
売上高	6,587	100.0	4,839	100.0	-1,748	-26.5

2010年3月期 6ヵ月通算 事業セグメント別 事業利益

(単位:億円)

■ 事業セグメント	2009年3月期 6ヵ月通算		2010年3月期 6ヵ月通算		前年同期比増減	
	金額	利益率(%)	金額	利益率(%)	金額	増減率(%)
■ ファインセラミック部品関連事業	29	7.7	-36	—	-65	—
■ 半導体部品関連事業	107	13.0	45	7.2	-63	-58.3
■ ファインセラミック応用品関連事業	207	24.0	44	6.5	-164	-78.9
■ 電子デバイス関連事業	60	4.4	3	0.3	-57	-94.6
部品事業 計	404	11.7	56	2.3	-348	-86.2
■ 通信機器関連事業	-24	—	-75	—	-51	—
■ 情報機器関連事業	122	9.7	84	7.5	-38	-31.5
機器事業 計	98	3.8	9	0.4	-90	-91.3
■ その他の事業	139	20.9	18	3.1	-121	-87.0
事業利益 計	641	9.7	82	1.7	-558	-87.1
本社部門損益	62	—	73	—	11	17.3
持分法投資損益	36	—	15	—	-21	-57.9
調整及び消去	1	—	1	—	-0	—
税引前四半期純利益	740	11.2	171	3.5	-569	-76.8

2010年3月期 事業セグメント別 売上高予想

(単位:億円)

■ 事業セグメント	2009年3月期		2010年3月期				前期比増減		前回 予想比 増減
			前回予想 (2009年4月)		今回予想 (2009年10月)				
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	増減率(%)	金額
■ ファインセラミック部品関連事業	617	5.4	500	4.8	480	4.6	-137	-22.2	-20
■ 半導体部品関連事業	1,351	12.0	1,100	10.6	1,270	12.2	-81	-6.0	170
■ ファインセラミック応用品関連事業	1,489	13.2	1,580	15.2	1,480	14.2	-9	-0.6	-100
■ 電子デバイス関連事業	2,313	20.5	1,850	17.8	1,900	18.3	-413	-17.8	50
部品事業 計	5,771	51.1	5,030	48.4	5,130	49.3	-641	-11.1	100
■ 通信機器関連事業	2,188	19.4	2,000	19.2	1,960	18.9	-228	-10.4	-40
■ 情報機器関連事業	2,293	20.3	2,340	22.5	2,290	22.0	-3	-0.1	-50
機器事業 計	4,481	39.7	4,340	41.7	4,250	40.9	-231	-5.1	-90
■ その他の事業	1,260	11.2	1,230	11.8	1,220	11.7	-40	-3.2	-10
調整及び消去	-226	-2.0	-200	-1.9	-200	-1.9	26	—	0
売上高	11,286	100.0	10,400	100.0	10,400	100.0	-886	-7.8	0

2010年3月期 事業セグメント別 事業利益予想

(単位:億円)

■ 事業セグメント	2009年3月期		2010年3月期				前期比増減		前回 予想比 増減
			前回予想 (2009年4月)		今回予想 (2009年10月)				
	金額	利益率(%)	金額	利益率(%)	金額	利益率(%)	金額	増減率(%)	金額
■ ファインセラミック部品関連事業	-2	—	0	0.0	0	0.0	2	—	0
■ 半導体部品関連事業	87	6.4	40	3.6	105	8.3	18	21.1	65
■ ファインセラミック応用品関連事業	275	18.4	180	11.4	115	7.8	-160	-58.1	-65
■ 電子デバイス関連事業	-41	—	20	1.1	55	2.9	96	—	35
部品事業 計	318	5.5	240	4.8	275	5.4	-43	-13.6	35
■ 通信機器関連事業	-177	—	-60	—	-60	—	117	—	0
■ 情報機器関連事業	135	5.9	110	4.7	150	6.6	15	11.1	40
機器事業 計	-42	—	50	1.2	90	2.1	132	—	40
■ その他の事業	141	11.2	40	3.3	38	3.1	-103	-73.1	-2
事業利益 計	417	3.7	330	3.2	403	3.9	-14	-3.4	73
■ 本社部門損益等	143	—	240	—	167	—	24	17.1	-73
税引前当期純利益	560	5.0	570	5.5	570	5.5	10	1.8	0

注 記

- 各項目の金額は億円単位で四捨五入しています。
 - 各比率については、百万円単位で比較した際の比率を記載しています。
 - 「当社株主に帰属する当期純利益」及び「当社株主に帰属する四半期純利益」は2009年3月期までの「当期純利益」及び「四半期純利益」と同じ内容です。
-

将来予想に関する注意事項

この資料に記載されている記述には、1934年米国証券取引所施行21E条に定義される「将来予想に関する記述」(forward-looking statements)が含まれています。これらの将来予想に関する記述は、現時点で入手できる情報に鑑みて当社が予想を行い、所信を表明したものであります。これらの将来予想に関する記述は、既知及び未知のリスク、不確実な要因並びにその他の要因を含んでいます。これらのリスク、不確実な要因及びその他の要因は以下のものを含みますが、これらに限られるものではありません。(1)当社が関連する市場における経済状況(主に、日本、北米、欧州並びにアジア(特に中国))。(2)中国における経済・政治・法律面での条件の予測し得ない変化。(3)競争の激しいセラミック、半導体部品及び電子部品市場において当社が、革新的な製品を開発・生産し、品質・納期を含めて、顧客の要求に沿った先進技術を投入する能力の不確実性。(4)生産高や業績に影響を与える社外委託工程や自社内製造過程で生じる遅れや不具合の発生。(5)円高、政治・経済情勢、売掛金回収リスク、製品の価格競争力の低下、輸送経費の増大、海外事業への人材配置・管理の問題、知的財産権の保護の不十分性など、輸出に影響する可能性がある要素。(6)売上高の相当な部分を構成している通貨(特に米ドル及びユーロ)の対円為替相場の変動。(7)当社顧客の財政状態の悪化による売掛債権の回収リスク。(8)エンジニアリング・技術部門での熟練労働者の確保の不確実性。(9)機密保持及び特許権の保護の確保が不十分である事態。(10)製品を製造・販売する為に必要となるライセンスの継続的確保の不確実性。(11)今後の取り組み及び現在進行中の研究開発が期待される成果を生み出さない事態。(12)買収した会社や取得した資産に関連して想定以上の統合費用がかかり、期待される収益又は事業機会が得られない事態。(13)テロ行為、疾病の発生など、当社の市場やサプライチェーンに悪影響を与える要素。(14)製造施設その他主要な事業関連施設が存在する地域における地震などの自然災害の発生。(15)国内外の環境規制強化に伴う当社の賠償責任や遵守義務の増大。(16)保有する有価証券及びその他の資産の時価の変動、減損処理の発生。(17)会計基準の変更。これらのリスク、不確実な要因及びその他の要因により、当社の実際の業績、事業活動、展開又は財務状況は、これらの将来予想に関する記述に明示又は包含される将来の業績、事業活動、展開又は財務状況と大きく異なる場合があります。当社は、この資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。